

## 長門 長門

近松の生誕伝承が残るまら

(山口県長門市)

「江良はよいとこ近松生んで、柿もよいとこ、えらいとこ」

長門市東深川江良には、古くから、

近松門左衛門の生誕伝承があります。

明治時代、この江良に住んでいた

梶杜親すぎもり介氏は、近松門左衛門の本名

が梶杜（杉森）信盛であり、江良の

梶杜家こそ、この近松の家系である

という伝承から、梶杜家が近松ゆか



りの家系であることを確信していたようです。

明治九年（一八七六）、親介氏は、名誉ある家系を守ろうと、江良の真砂山まさごやま観音堂の境内に「梶杜先祖之塚」を建てました。また、江良にある梶杜家の屋敷跡は、い

まも近松屋敷として語り継がれています。

また、大田南畝おおたなんぼが書いた近松の略伝に

も、近松は「本姓杉森、名は信盛、字平馬、長門萩の人」とされています。南畝

は蜀山人しよくさんじんと称し、江戸時代を代表する学

者として知られている人物です。南畝の

この説は、近松の出生地研究に大きな影響を与えました。近松長門出生説を支持

したのが、森鷗外もりおうがいです。明治三十四年

（一九〇一）に佐賀県唐津市の近松寺きんしょうじを



近松門左衛門の碑

訪れた鴈外は「『近松は長門深川の人』と刻んだ石碑を見つけた」と『小倉日記』に記しています。

昭和八年（一九三三）には地域の人々により、深川小学校前の赤崎山に「巢林子近松翁之碑」も建てられました。

また、赤崎神社には、「楽<sup>がく</sup>棧<sup>せき</sup>敷」（重要有形民俗文化財）が残っています。赤崎山中腹のすり鉢状の地形を利用して谷底に踊り場、傾斜面に階段式観覧席が造られています。江戸時代に村人により芝居や楽踊りが奉納された舞台で、村人は芝居見物を楽しんでいたものと思われます。近松出生の地に「楽棧敷」あり、というわけです。

市制四〇周年を迎えた平成六年度



赤崎神社楽棧敷（赤崎神社楽踊り）

から「近松祭 in 長門」が始められています。近松門左衛門出生の伝承を基にすめられるもので、内容的には文楽や歌舞伎をはじめ近松作品をアレンジした舞踊、演劇、オペラや、大学と提携して行われる講演会など、さまざまなイベントで構成され、市民はもちろん、県内外から研究者、愛好家が数多く参加、高い評価を受けています。

最近では近松ゆかりの地にふさわしく、文化の拠点として「ルネッサながと」がオープンしました。高度な舞台機構を備え、本格的な歌舞伎、文楽も上演できます。

長門市のもうひとつの顔が、最近クローズアップされた童謡詩人金子みすゞです。長門のまちで「みすゞさん」といえば知らない人はいません。漁港せんざき仙崎で生まれ育った彼女のその透明なまなざしは、人間にとどまらず、全ての生き物や自然に等しく注がれ、優しいながらも、私たちが失いかけている大切なものへの「気付き」を詩の中にちりばめています。現在、彼女の詩は、小学校教科書や数多くのメディアにも採り上げられ、あらためて見直されています。